



サイクス(SICS)は、産業情報支援センターの運営組織である、(株)西条産業情報支援センターの愛称です。

今月は、住民主体の地域密着ビジネスとして注目を集めるコミュニティビジネスについて紹介します。

地域の課題を住民主体で解決！

## 注目を集めるコミュニティビジネス

前編

今月と来月のこのコーナーでは、近年、にわかに注目を浴びている「コミュニティビジネス」について、ご紹介します。

■コミュニティビジネスとは  
「コミュニティビジネス(以下、CB)」とは、住民が主体となって、地域(コミュニティ)が抱える課題を解決し、その活動の利益を地域に還元していこうとする、地域密着ビジネスのことを指します。

CBは、地域の人材やノウハウ・施設・資金を活用することによって、新たな雇用の創出や働きがい・生きがいを生み出し、地域の活性化に寄与するものとして期待されています。

CBが注目されるようになった要因としては、バブル経済の崩壊を経験し、物質経済重視の画一的なまちづくりから、それぞれの地域特性にマッチした柔軟で特徴のあるまちづくりが求められてきたからです。

### ■主役は地域住民

CBは、地域社会に貢献するという目的のもと、従来のビジネスの手法も用いて、事業を継続的かつ安定的に運営するという特徴があります。そして、そこで生まれる利益や雇用は、経済的価値の追求のみではなく、住民が主役となった活動によって地域が元

気がなったり、事業者自身やりがいを持てるようになることが重要です。

現在、わが国では、高齢化問題や介護・環境問題など、多様な社会的課題を抱えている

ます。これらの課題に対して国の施策を待つだけではなく、住民が一体となって地域に合った取り組みを行い、成果を上げているCBも多くあります。

徳島県上勝町の高齢者が中心となって行う、料理のつま物販売は、「地域資源を活かした「葉っぱビジネス」として広く知られています。

住民主体の活気ある地域社会をつくることは、日本全体を元気にする原動力にもなっています。大都会にはない住民同士の結束力を活かし、地域の自然や環境と調和した社会を構築することで、本当の豊かさを実感できるのではないのでしょうか。

### ▼CBに期待される効果

- 地域の活性化**
  - 商店街・地元企業が元気になる
  - 新規創業・第二創業が生まれる
- 地域サービスの質向上**
  - 公的サービスの民営化
  - 行政サービスの効率化
- 地域の雇用創出**
  - 高齢者・女性・若者を中心とした雇用創出
  - 働きがい・やりがいの創出
- 地域の生活環境の向上**
  - 元気な地域社会の再生
  - 安心安全なまちづくり

### ▼CBと従来ビジネスとの比較

項目	従来	CB
目的・理念	利潤追求 社会貢献	コミュニティ再生 地域社会への貢献 地域課題解決
事業コンセプト	競争	共生・生きがい
市場規模	大	小
住民との関係	企業主導	協働
成果の評価	利益	活力ある地域 自己実現 継続性

去る11月8日、サイクスの産業支援ネットワーク会員で、桜美林大学名誉教授・人間環境活性化研究会理事を務める藤田慶喜氏が来西され、市内企業の経営者などを対象とした講演会を開催しました。

「グローバル化の中における地域中小企業の今後の戦略について」という演題で行われた講演では、日本の成長を支えてきた「ものづくり」の生産の場が中国などに移されるなか、中小企業が生き残るためには、素材開発分野やより複雑でマニュアル化しにくい産業に向かうべき、との話などがなされました。

また、国連等で活躍された経験を踏まえ、西条の地域資源を活かした産業展開や海外戦略について、企業経営者と熱心に意見交換を行いました。



熱く講演される藤田先生

講演会を開催しました  
桜美林大学 藤田慶喜 名誉教授